



2010年10月29日

## 2010年度「住田正一海事奨励賞」、「住田正一海事史奨励賞」及び 「住田正一海事技術奨励賞」決定のお知らせ

社団法人日本集會海運所  
住田海事奨励賞管理委員会

住田正一海事奨励賞は、永年海運造船事業に従事するかたわら、海事資料刊行、海事史の研究を通じて、広く海事文化発展に寄与された故住田正一氏を記念して設置された。正一氏のご子息、住田正二氏（元運輸事務次官、前JR東日本社長、現JR東日本相談役）が、1969年に創設して以来、社団法人日本海運集會所に住田海事奨励賞管理委員会を設け、選考決定している。2002年からは、海事史奨励賞、2008年度から海事技術奨励賞が設けられた。

本年度も3賞それぞれに応募作があり、選考の結果、海事奨励賞受賞作には石原伸志・合田浩之共著『コンテナ物流の理論と実際』（成山堂書店）、海事史奨励賞受賞作には高松昇著『石川島造船所創業者 平野富二の生涯』（㈱IHI）、海事技術奨励賞受賞作には（社）日本船舶海洋工学会海中技術研究委員会編『海洋底掘削の基礎と応用』（成山堂書店）が決定した。10月25日、日本海運集會所において受賞式が行われ、各受賞者に賞状と賞金が贈呈された。

### <海事奨励賞受賞理由>

海事奨励賞受賞の『コンテナ物流の理論と実際』は、コンテナリゼーションの歴史と発展、海運・物流業務などに与えた影響や実務内容、最近の動向などについて、簡潔かつ平易にまとめられ、さらに将来的な課題や問題提起も記述されている。本書は、物流に関わってきた実務派の研究者と海運会社で国際物流に従事した共著者によってまとめられた。コンテナ輸送関連業務に従事して間もない実務者やコンテナリゼーションに関心をもつ読者にとって知識の習得や整理に役立つ啓発書である。

共著者の石原伸志氏は、1974年三井倉庫(株)入社、2004年国際部長を経て現在東海大学海洋学部教授。また、合田浩之氏は1991年日本郵船(株)入社、調査グループ、経営企画グループなどを経て現在、渉外グループチーム長。

### <海事史奨励賞受賞理由>

海事史奨励賞の『石川島造船所創業者 平野富二の生涯』は、幕末から明治という激動の時代を47歳という短命で逝った富二の生涯を、各地に散逸する新たな資料や情報を地道に長期間かけ発掘し、はじめて知られざる実像に迫ったもの。同造船所を自らの手で創り上げた情熱と行動力、そして起業家としての生きざまは、日本のものづくりの危機が叫ばれるなか、時代を超えて読者に訴えかけるものがある。著者の高松昇氏は1943年(株)東京石川島造船所入社、1984年専務取締役を経て1991年退社。

< 海事技術奨励賞受賞理由 >

海事技術奨励賞の『海洋底掘削の基礎と応用』は、わが国周辺海域に存在する貴重な海底資源の生産、開発計画に必要な海洋底掘削技術を網羅的に解説したわが国初の著作である。日本の執筆者陣によってこの分野のオリジナルの専門書がまとめられた意義は大きい。本書では、日本が世界に誇る地球深部探査船「ちきゅう」が例として取り上げられ、写真やイラストがふんだんに用いられ、用語解説もていねいであり、初学者にも理解できるように工夫され、読み物としても興味深い。海中技術研究委員会（委員長田村兼吉、海上技術安全研究所 研究統括主幹）は、海洋関係の現役・精鋭の技術者、研究者 13 名で構成されている。

以上

（参考写真：受賞式の模様）



受賞式にて：1列目の左側より田村氏、高松氏、石原氏  
2列目の右側より合田氏、弊所山路理事長

